

ご案内




七夕祈願祭 ★ ★ ★

日時：2018年7月7日（土）19時～
場所：津観音寺境内 津市大門 32-19
短冊をご用意しています。



■伊勢の津七福神開創10周年に向けて

友の会会長 西田久光

開創法要を挙げてから早いもので5年半が過ぎようとしています。この間、延べ3,000人を超える津市内外の方々が巡拝されています。霊場会と友の会が一丸となって熱心に取り組んできてきた中身の濃い数字です。特に友の会事務方の女性陣の並々ならぬ献身が大きな推進力になっており、本当に頭が下がる思いでいっぱいです。

私が七福神が好きな理由は、インド・中国・

日本と3国に由来する神々だということです。往古からこの国の人々に大きな影響を与えてきたインド・中国の神々も合わせて七福神とする鷹揚(おうよう)な心の在り方は、世界の人々が希求してやまない共存共栄、平和の原点だと思うからです。巡拝される方々は人それぞれの細やかな願いを胸に巡拝されておられますが、その細やかな願いと同時に知らず知らずのうちに、全ての国の人々の幸せをもお祈りすることに繋がっているのではないのでしょうか。

開創5周年法会で、諸般の事情から布袋尊霊場が榊原の地蔵寺さんから波瀬の安楽寺さんに代わりました。安楽寺さんは聖武天皇の勅願によって開山した古刹であり、波瀬はまた伊勢平氏や北畠氏ゆかりの歴史ある地域です。波瀬の方々は地域のお寺として安楽寺さんを支えて下さっています。そんな地域に布袋尊を迎えて頂いたことは、未来仏弥勒菩薩の化身と言われる布袋尊から「さあ、伊勢の津七福神はもっと発展するぞ！」と檄を飛ばされた気がします。

伊勢の津七福神霊場の7寺社は、それぞれこの地域にとって重要な歴史・文化を持ち、また花々や紅葉にも恵まれた「心を癒し豊かにしてくれる空間」です。次の節目の10周年に向けて更に発展させていきましょう。

■神仏習合の七福神

鹿島寿美 (友の会会員)

私は安濃町にある名もない小さな寺の長女です。16歳の頃は、尼僧になりたかった。18歳の時、父より尼寺に頼んで貰ったが、断られました。



友達に誘われるまま銀行に入社しました。そのせいか、寺からの縁談は、一つもありませんでした。兄より独立して、一人親方の鉄工所経営の人と結婚しました。

寝る間も惜しみ、食べる物も食わず、三人の子供を育てました。無理がたたったのか 50 歳の頃倒れました。家事ぐらいしかできなくなりました。

その頃、嬉野パソコン教室で隣に座った T さんより一志 33 観音霊場巡りに誘われました。

ウォーキングを趣味にしている友達に相談すると、行こうと言ったので、平成 24 年 5 月より徒歩にて、一志 33 霊場巡り、松阪 33 霊場巡り、芸濃 33 霊場巡り、射和 18 寺巡り、松阪 6 観音巡り、29 年 5 月より三重四国 88 カ所巡礼、現在は亀山を歩いています。

「津の町に七福神がやってきた」三重タイムズの新聞を見てから、津観音寺、四天王寺、円光寺、高山神社、初馬寺と開創記念法会に行っていたのに、平成 29 年 12 月 2 日は、都合で行けませんでした。布袋尊の榊原地蔵寺より一志町波瀬の安楽寺に代わった日でした。

平成 30 年 2 月 27 日、観梅祈願祭に友達 5 人といきました。七福神の寺社様と一緒に写真を撮っていただきました。感謝感激です。歩く事が健康にいいのか、神様仏様に感謝して歩いています。

6 月初旬には、花菖蒲を伊勢神宮に献納します。皆様是非参拝の途中ご覧ください。花菖蒲は三重県の花です。

報告

雁行とは ガンのように列をなして、経を唱えながら歩きます。

■雁行(がんこう)は安楽寺へ 5月12日(土)

美しい法衣の安楽寺の和田住職は、私達 9 名をお迎えくださいました。薬師如来の前で般若心経を唱え、布袋様の前でお参りしました。幸せなひとときを過ごしました。掃き清められた寺の境内にしばらく日常を忘れしました。次回は 10 月を予定しています。(事務局)



巡拝者 3,000 人目は (H30 年 2 月 12 日高山神社へ) 平成 24 年 12 月に開創されて 5 年半。大勢の方が伊勢の津七福神を巡拝されました。

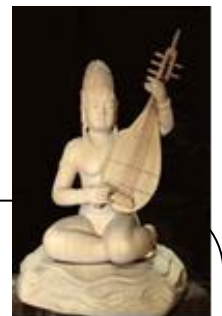
3,000 人目は濱川晋一郎、裕子さんのカップル。晋一郎さんは南伊勢町で漁師さんをされている方でした。仕事でトラックを運転中、ラジオで伊勢の津七福神の事を知り、巡ってみようと思いついたそうです。

[宮司・多田久美子]



傘さすは中将姫か白牡丹
満願の五色の念珠牡丹寺
塔影を水面に平ら心字池

IKUKO

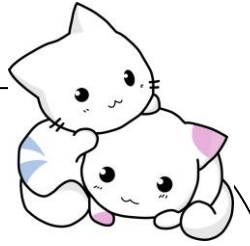


<七福神って>

辯才天 第2霊場・円光寺

七福神中の紅一点、琵琶を弾く妖艶な姿で現される辯才天は福德・諸芸能上達の神として広く信仰されています。

大黒天と同様、辯才天のルーツは古代インドの水の神サラスヴァティーです。



「子猫と過ごした3か月」①

奥地蓮一（神戸市）

わが夫婦はどちらも、犬は好きだが、猫が苦手。それがなんと子猫を育てることになった。しかも同時に2匹。3年前のことである。

5月初旬、庭の植木の根元にゴーヤの鉢植えを置くことにした。枝に蔓を巻き付け、たわわに実らせようとの魂胆。一仕事終え、ふと軒下のロッカーに目をやると引き戸が半開き。閉めておいた。

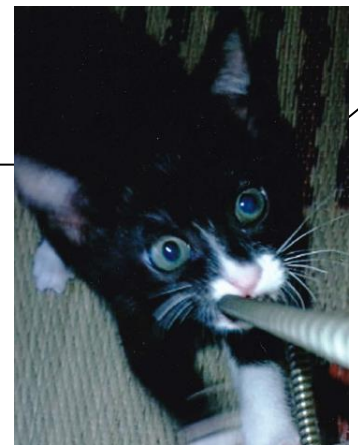
それから1週間ほどして、家内が「ロッカーから猫のような鳴き声がする」と言う。嫌な予感がした。慌てて戸を開けると、段ボール箱の上で三毛猫が死んでいた。傍らで、黒い子猫が心細げに鳴いている。

猫を閉じ込めてしまったのだ。内部を確認しなかった我が身の迂闊さに心がきしむ。【せめて戸を引っかけたり、鳴き声を上げてくれていたら・・・】——。が、おそらく親猫は子猫を守ろうと息をひそめ、食べ物も飲み物さえない闇の中で、ひたすらに耐え続けたのだろう。戸を閉めたとき、子猫の鳴き声を聞かなかったから、その後に子猫が生まれたのか。絶望と不安の中で子猫を産み、子猫をかばいながら懸命に生きようとした親猫を思うと、たまらなかった。

子猫は、目が見えるのかどうか、「ミー、ミー」と、か弱い声で鳴くだけで、足取りもおぼつかない。抱き上げたが重さを感じない。すぐにスポイトで白湯と温めた牛乳を与えるが、吐き出されてしまった。獣医に問い合わせたが、週末のためか休診。子猫を箱に入れると、急いでペットショップに走り、子猫用ミルクと哺乳瓶、猫砂など一式を手に入れた。

ミルクの温度や濃度を変え、子猫に飲ませようとするが一向に受けつけない。やむなく無理やり口を開け、10ccほど流し込んだ。

親猫を庭の隅に葬り、線香をあげて手を合わせた。そして「必ず子猫を育てる」と、心に決めた。衣装ケースに毛布を敷き、砂場と水飲み場をしつらえる。夜になって、子猫は少しだけミルクを口にするようになった。しかし環境が変わったためだろう、落ち着かない。その晩は私のジャンパーの懷に子猫を入れ、温めてやりながら座ったまま壁にもたれて一夜を過ごした。（つづく）



《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

電話：059-225-8558

編集後記：七夕祈願祭でおあいしましょう！

是非お出かけください。

池上 kanon@nifty.com